

決算説明会

2012年3月期第2四半期

2011年11月2日
ミネベア株式会社

1. 業績の説明

2. 経営方針と事業戦略

業績の説明

取締役 専務執行役員 加藤木 洋治

2011年11月2日

2

Minebea

上半期連結業績ハイライト

東日本大震災、レアアース高騰、円高、新工場立上げ費用などで減収減益

(百万円)	2011年3月期 上半期	2012年3月期 上半期	前年同期比 伸び率	2012年3月期 上半期 期初計画
売上高	137,695	132,448	-3.8%	135,000 ~123,000
営業利益	12,371	6,052	-51.1%	9,700 ~8,100
経常利益	11,536	5,032	-56.4%	8,700 ~7,100
純利益	7,317	2,769	-62.2%	4,400 ~3,300
一株当たり 純利益(円)	19.15	7.30	-61.9%	11.60 ~8.70

為替レート	11/3期上半期	12/3期上半期	12/3期上半期 想定
US\$	89.70円	80.24円	84.00円
ユーロ	114.92円	115.76円	111.00円
タイバツ	2.78円	2.66円	2.80円
人民元	13.17円	12.38円	12.60円

2011年11月2日

3

Minebea

上半期の連結業績は、前年同期に比べ売上高が3.8%減少し1,324億4,800万円、営業利益は51.1%減少し60億5,200万円、純利益は62.2%減少し27億6,900万円となりました。

3月に発生した東日本大震災によるサプライチェーンの混乱の影響は大きく、被災を免れた当社においても、ボールベアリング事業において主に日本向けの高付加価値品販売が減少したことによる製品ミックスの一時的悪化、LEDバックライト事業における資材調達難による生産効率の悪化、OA機器向けモーター販売の一時的減少などの業績悪化要因となりました。また、4月にスタートした蘇州とカンボジアの新工場立上げ費用が嵩んだという要因もありました。第2四半期にはこういった悪影響はかなり薄らぎましたが、一方でレアアースの高騰が進み回転機器事業の業績改善が遅れ、また、円高も更に進展するなど厳しい事業環境により、前年同期比で減収減益となりました。

対計画では、売上高は円高の悪影響があったものの、ボールベアリングや航空機向けベアリングの出荷が好調だったことなどを主要因に、計画上限に近い数字となりました。しかし、営業利益、経常利益と純利益においては、先ほど申し上げた悪化要因(レアアース高騰、ボールベアリングの一時的製品ミックスの悪化、LEDバックライトの生産効率悪化、OA機器向けモーターの販売不振)の影響が当初想定以上に大きく、計画レンジを下回ってしまいました。

2Q連結業績ハイライト

レアアース高騰によるマイナス影響はあったものの、東日本大震災によるサプライチェーン混乱からの回復などにより、前四半期比で増収増益

(百万円)	2011年3月期	2012年3月期		前年同期比	前四半期比
	2Q	1Q	2Q	伸び率	伸び率
売上高	69,803	64,802	67,646	-3.1%	+4.4%
営業利益	6,346	2,303	3,749	-40.9%	+62.8%
経常利益	5,935	1,870	3,162	-46.7%	+69.1%
四半期純利益	3,502	668	2,100	-40.0%	3.1倍
一株当たり 四半期純利益(円)	9.16	1.76	5.56	-39.3%	3.2倍

為替レート	11/3期2Q	12/3期1Q	12/3期2Q
US\$	86.58円	82.04円	78.44円
ユーロ	109.31円	118.54円	112.98円
タイバツ	2.70円	2.72円	2.59円
人民元	12.73円	12.57円	12.18円

2011年11月2日

4

Minebea

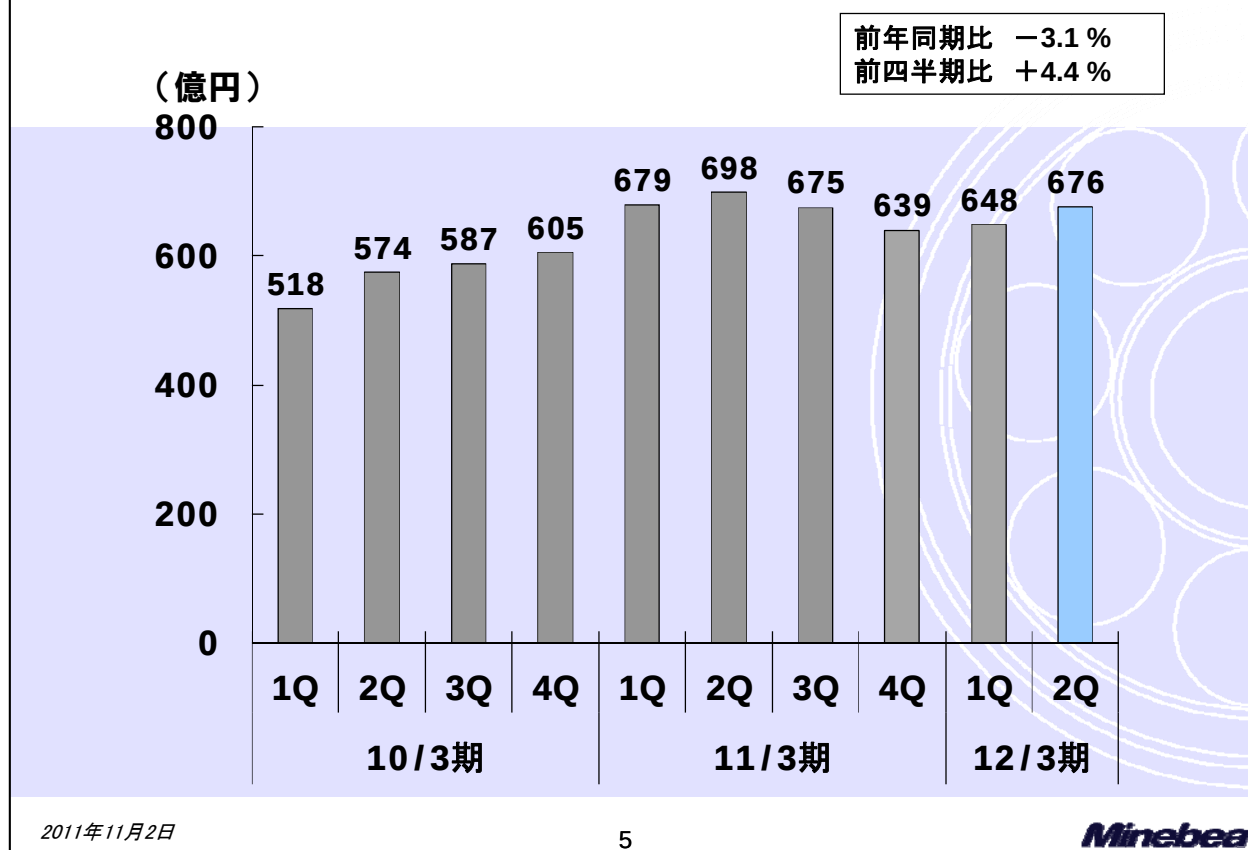
2012年3月期第2四半期の連結業績は、前四半期と比べ、売上高が4.4%増の676億4,600万円、営業利益は62.8%増の37億4,900万円、四半期純利益は21億円となりました。

売上高は円高の進展はあったものの、東日本大震災によるサプライチェーン混乱からの回復が進み、また、受注増加が続くLEDバックライトやロッドエンドの増収で4.4%増となりました。

利益面ではレアアース高騰により回転機器事業の改善が遅れたものの、東日本大震災によるサプライチェーン混乱からの回復が進み、また4月にスタートした蘇州とカンボジアの新工場立上げ費用も落ち着き増益となりました。

売上高

四半期推移

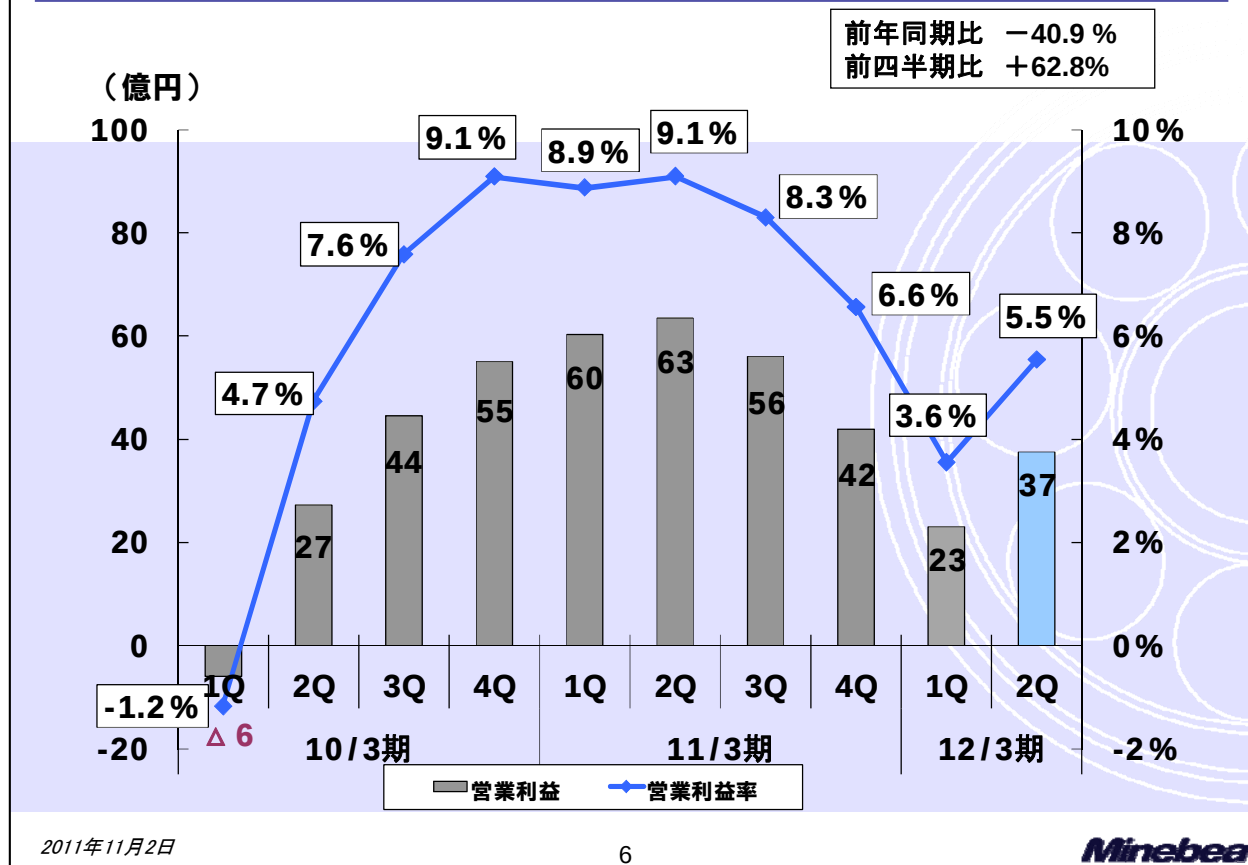


第2四半期の売上高は円高の進展によるマイナス影響が前四半期比で22億円あったものの、震災の影響が薄れ、また受注増加が続くLEDバックライトやロッドエンドの増収で、前四半期比4.4%増の676億円となりました。

為替の影響は前年同期比では約36億円のマイナス影響がありました。

営業利益

四半期推移



第2四半期の営業利益は、レアアース高騰により回転機器事業の改善が遅れたものの、震災の悪影響が薄れ、また4月にスタートした蘇州とカンボジアの新工場立上げ費用も落ち着き、前四半期比で増益となりました。営業利益率は1.9ポイント改善し5.5%となりました。

営業利益への為替影響は、前年同期比で約3億円のマイナス影響、前四半期比では、約1億円のプラス影響でした。

機械加工品事業

セグメント別

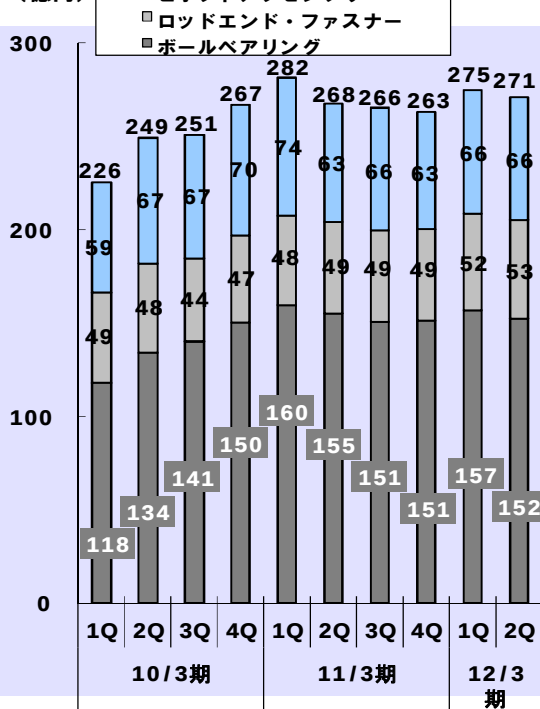
※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

四半期推移

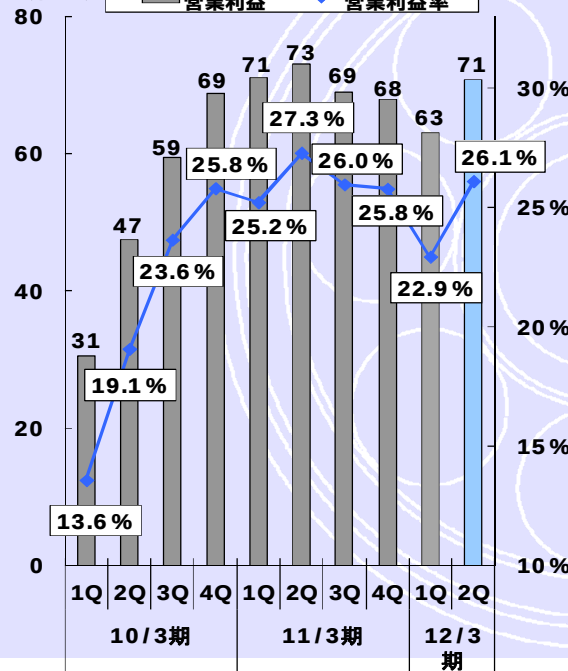
売上高

営業利益

(億円)



(億円)



2011年11月2日

7

Minebea

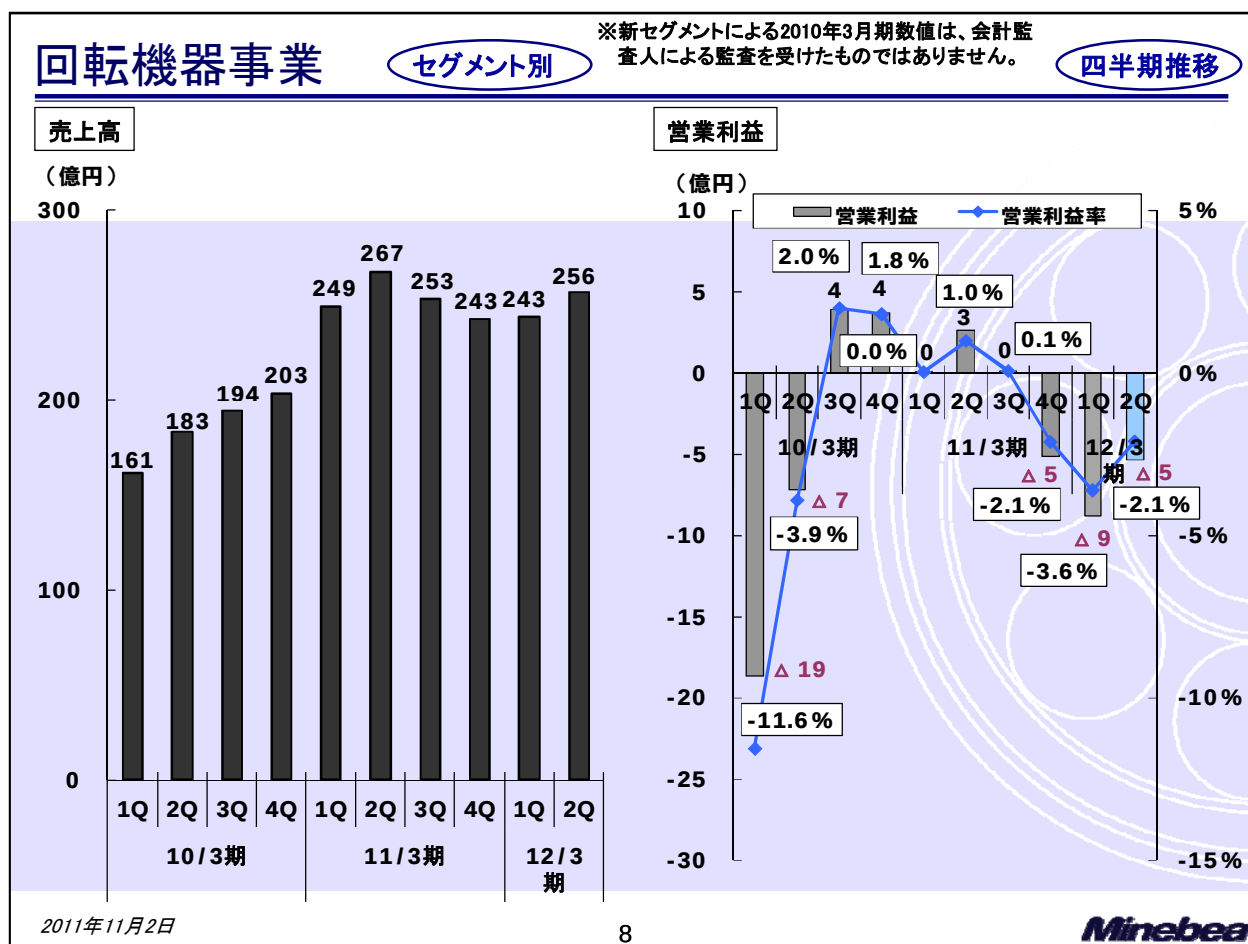
次に、各事業セグメントの状況についてですが、機械加工品事業セグメントの第2四半期の売上高は、前四半期比1.3%減の271億円となり、営業利益は12.3%増の71億円となりました。営業利益率は3.2ポイント上昇し26.1%となりました。

製品別では、ボールベアリングでは世界需要が好調に推移し、震災影響も薄れたため出荷量が月平均2億1,600万個と史上最高水準を更新しましたが円高の悪影響があり、売上高は前四半期比3.2%減の152億円となりました。利益面では生産効率が向上し、震災影響による一時的な製品ミックス悪化の影響が薄れ、大きく増益となりました。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は航空機需要の盛り上がりに伴う受注と販売の増加により、前四半期比1.9%増の53億円となり、利益も増加しました。

今後の航空機市場は、新型機の登場などで更に拡大していくと考えられ、業績も更なる改善が続くと見込まれます。

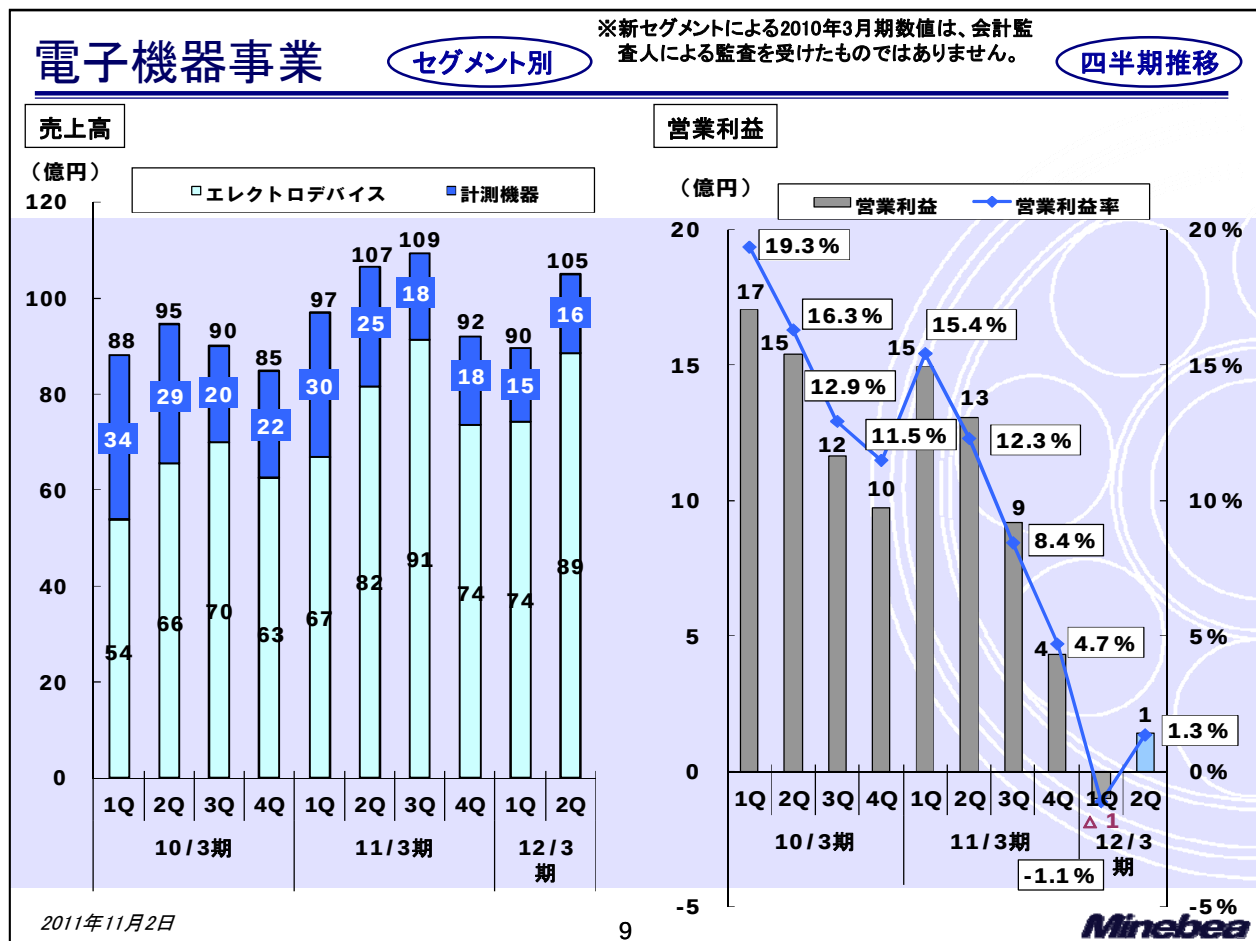
ピボットアッセンブリーの売上高は販売数量の増加があったものの、円高の悪影響もあり、前四半期比変わらずの66億円となりました。利益面では、稼働率上昇により、増益となりました。



第2四半期の回転機器事業セグメントは、震災の悪影響からの回復が見られ、売上高は前四半期比5.3%増の256億円となりました。営業損益は5億円の損失と赤字が縮小しました。震災の悪影響が薄れ、生産・販売は増加し、生産効率の改善が進みました。しかし、レアアース高騰による大きなコスト増を値上げにより対応していますが、どうしてもタイムラグにより遅れが出ているため赤字解消にはいたりませんでした。

営業利益率は1.5ポイント改善しマイナス2.1%となりました。

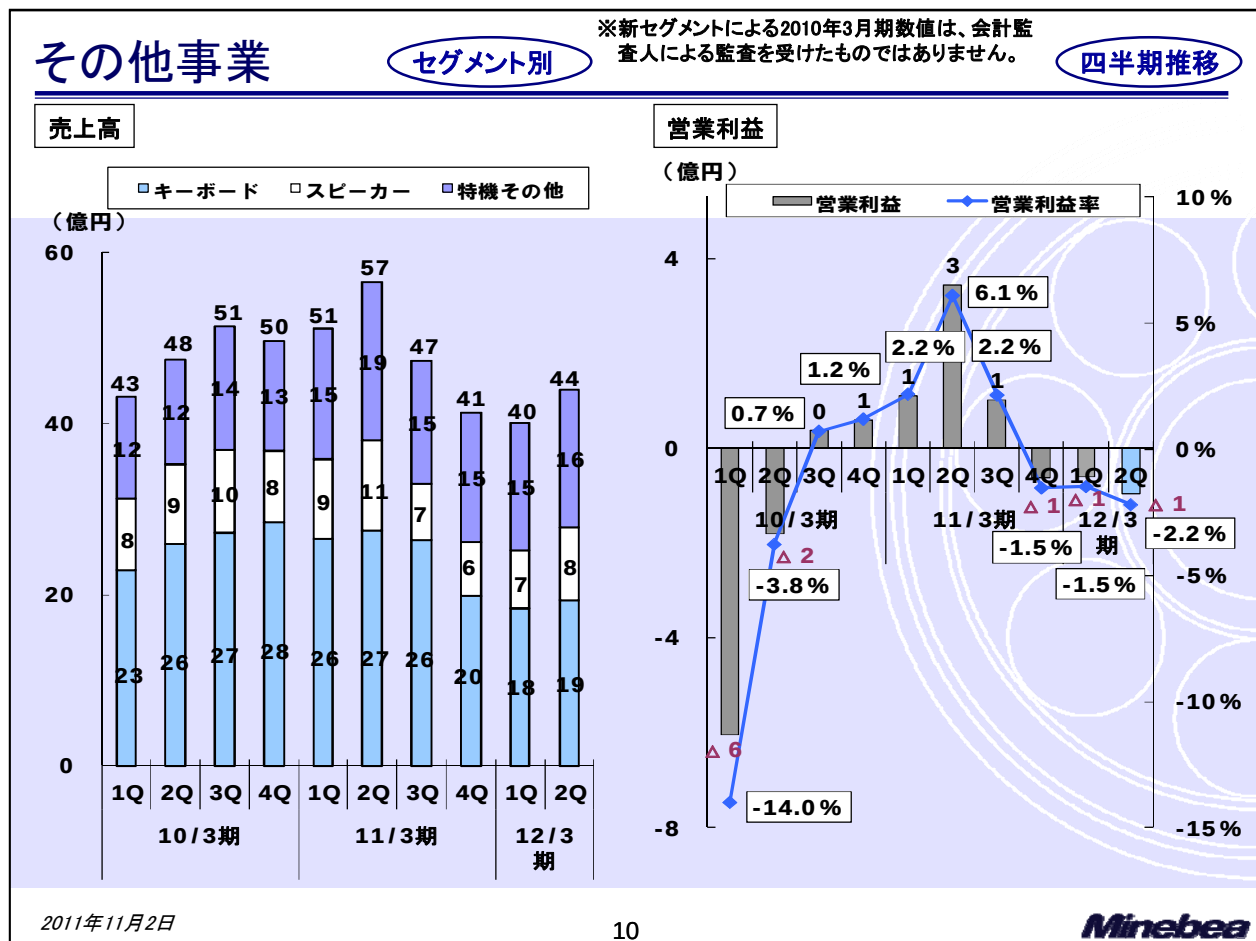
製品別では、HDDスピンドルモーターの出荷数量が増加して損益面での改善が進み、若干ですが黒字となりました。それ以外のモーター製品は震災影響を強く受けていたDCブラシレスモーター、ステッピングモーター、マイクロアクチュエーターなどを中心に売上の回復が見られました。但し、損益面では売り上げ増加に伴う改善があったものの、一方でレアアース高騰によるマグネット材料価格上昇の悪影響があり、赤字が残りました。



第2四半期の電子機器事業セグメントは、売上高は前四半期比で17.2%増の105億円となりました。営業損益は1億円の黒字となり、営業利益率は2.4ポイント改善して、1.3%となりました。

製品別ではエレクトロデバイスの売上高が前四半期比20.3%増の89億円となりました。これはLEDバックライトにおいて、好調な受注を受け、4月から稼働を始めた蘇州工場を含めて出荷が増加したためです。一方で、損益面では若干の赤字が残りました。LEDバックライトにおいて、急激な増産に注力する一方で、生産効率改善に遅れがあったためです。

計測機器の売上高は、国内自動車生産の震災からの回復があり、前四半期比で6.7%増の16億円となり、利益は横ばいとなりました。



第2四半期のその他事業セグメントは、前四半期比で売上が9.5%増の44億円、損益は1億円の赤字で変わらずとなりました。営業利益率は0.7ポイント低下してマイナス2.2%となりました。

製品別では、キーボードの売上高は、前四半期比5.6%増の19億円で、若干の赤字となりました。

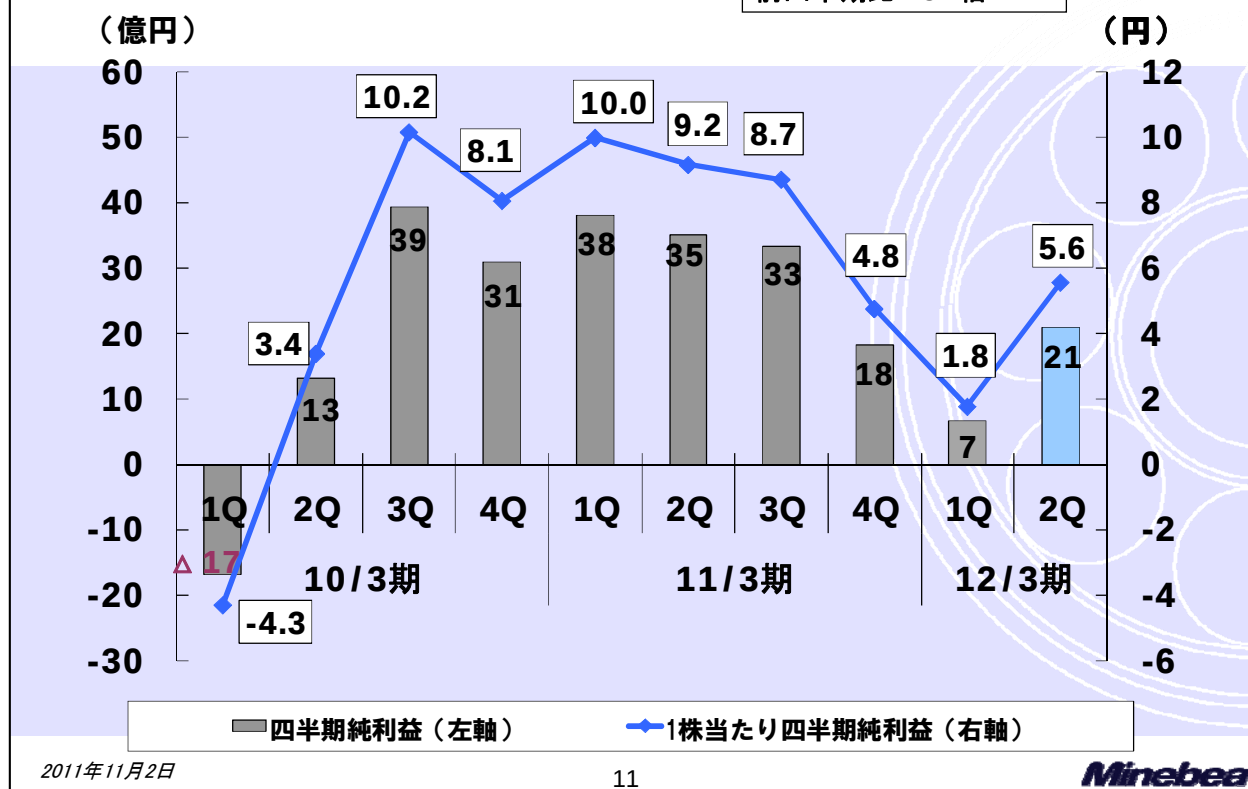
スピーカーの売上高は、前四半期比14.3%増加の8億円で、若干の赤字が残りました。

特機その他の売上高は、前四半期比で6.7%増の16億円で、利益はほぼ横這いでした。

純利益

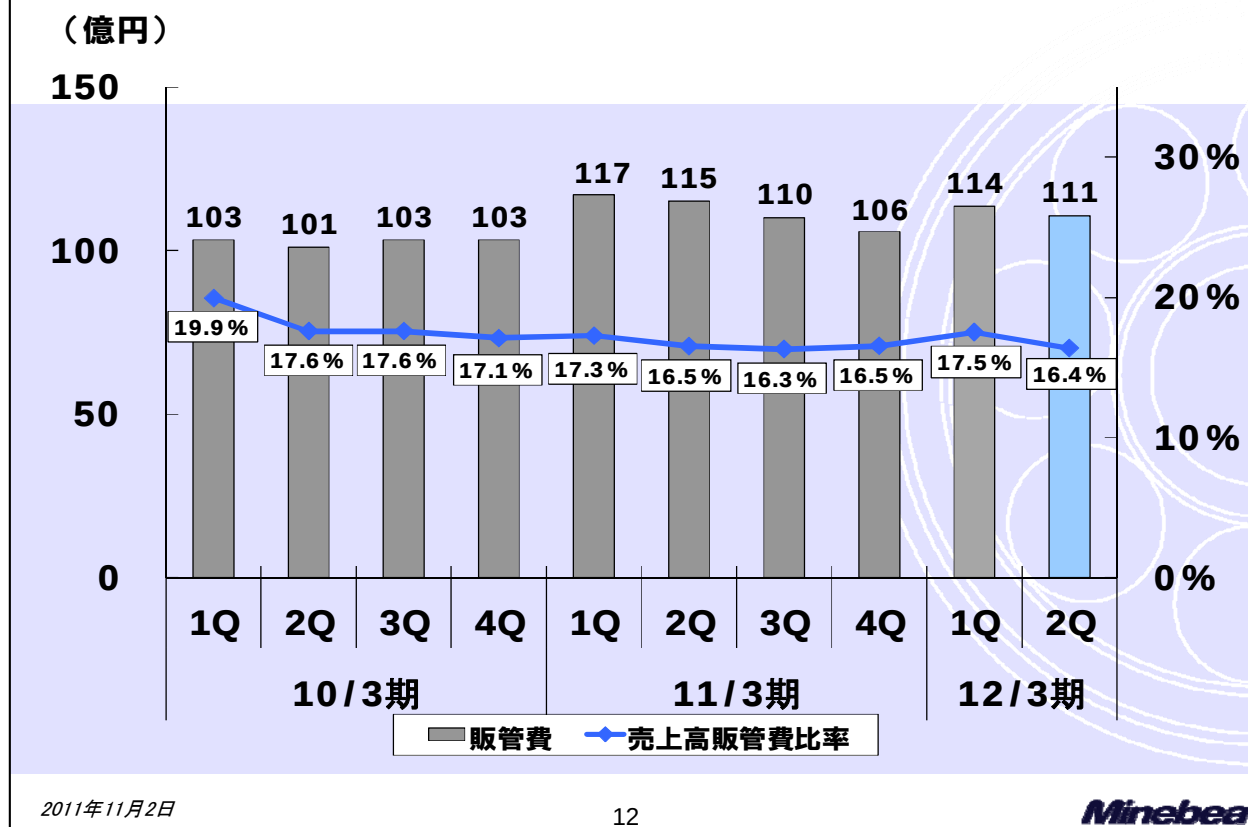
四半期推移

前年同期比 -40.0 %
前四半期比 3.1倍



第2四半期の純利益は営業利益の回復を受け、21億円となりました。

一株当たり純利益は、5.6円となりました。

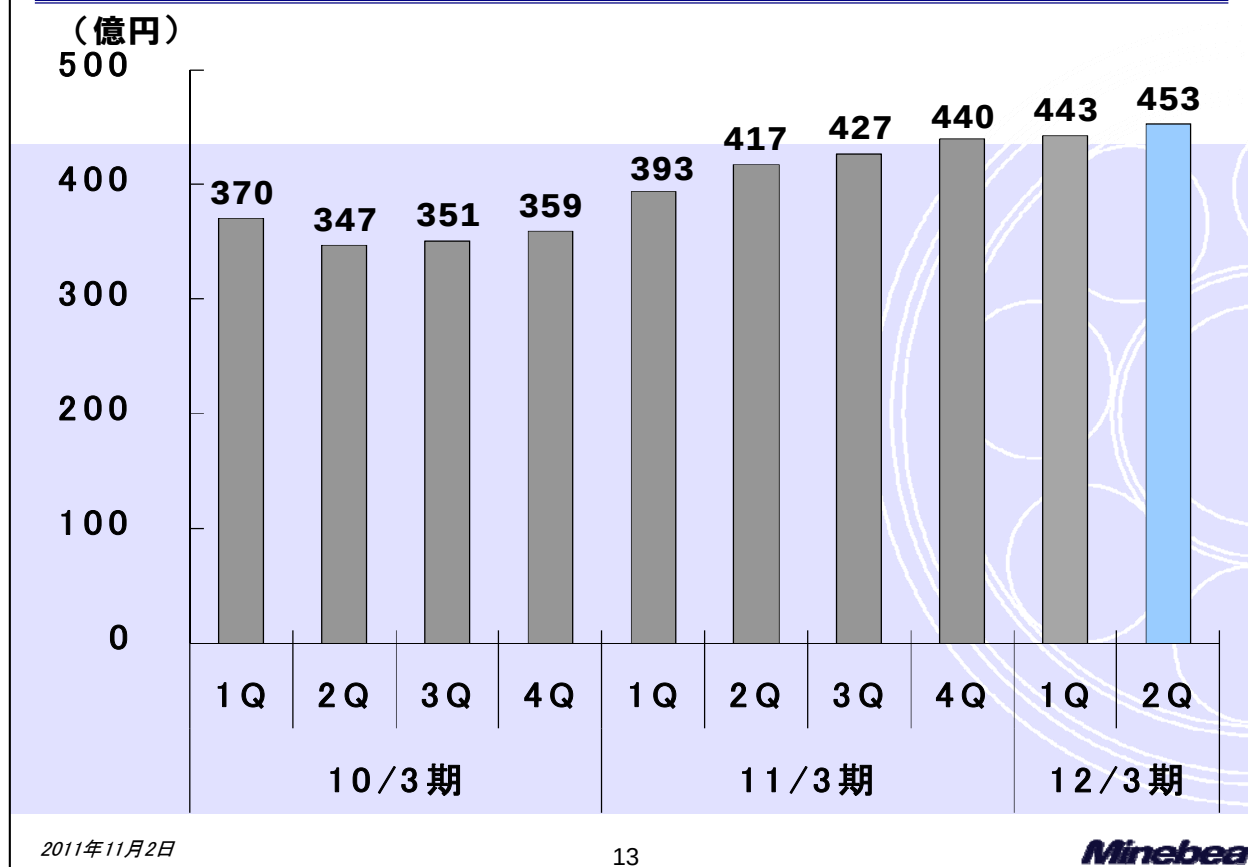


第2四半期の販管費は前四半期比3億円減少の111億円となりました。円高の進展に伴う海外経費の縮小が主な要因です。一方で売上は増加しており、売上高販管費比率は、前四半期比で0.9ポイント低下し16.4%となりました。

厳しい事業環境ではありますが、今後とも販管費の抑制に努めてまいります。

たな卸資産

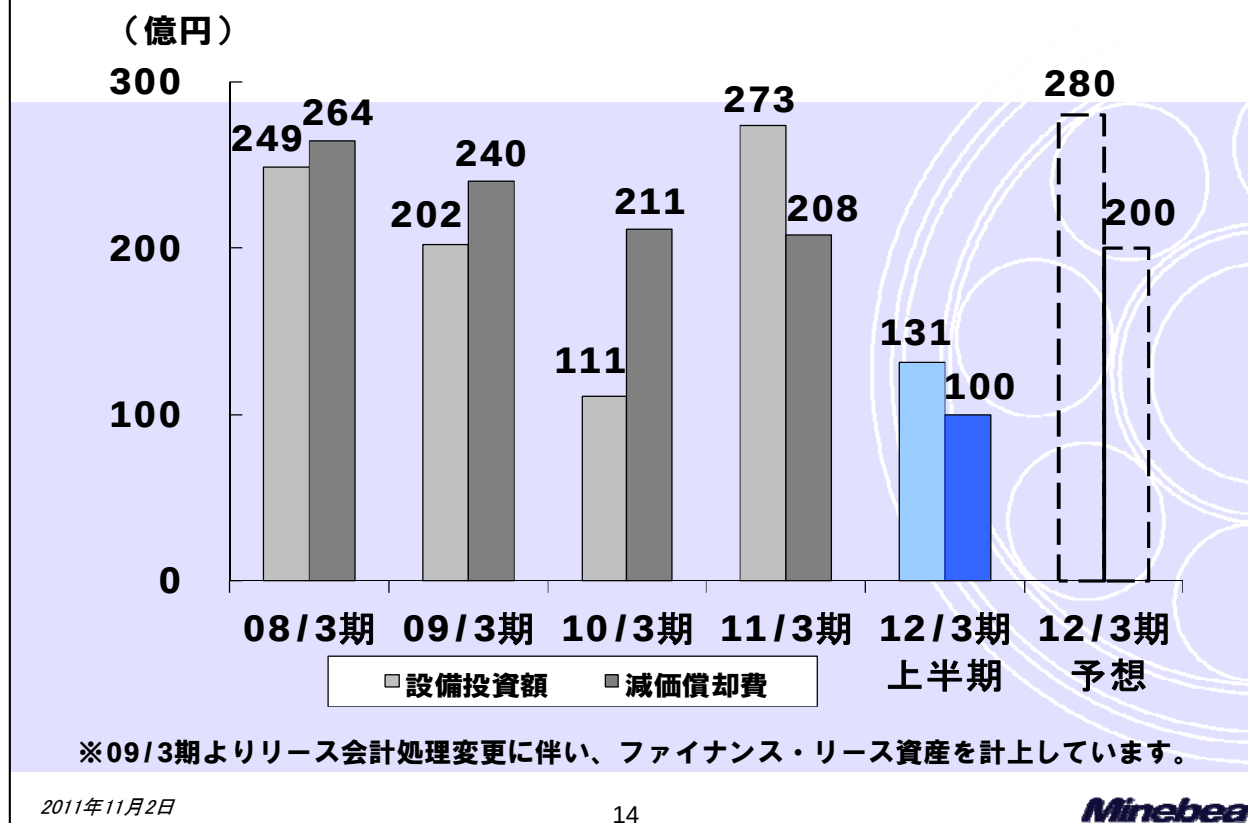
四半期推移



第2四半期末のたな卸資産は、第1四半期末と比べ10億円増加しました。これは、HDDスピンドルモーター、LEDバックライトの出荷数量増加に伴う在庫増加などの要因によるものです。

設備投資額・減価償却費

年推移

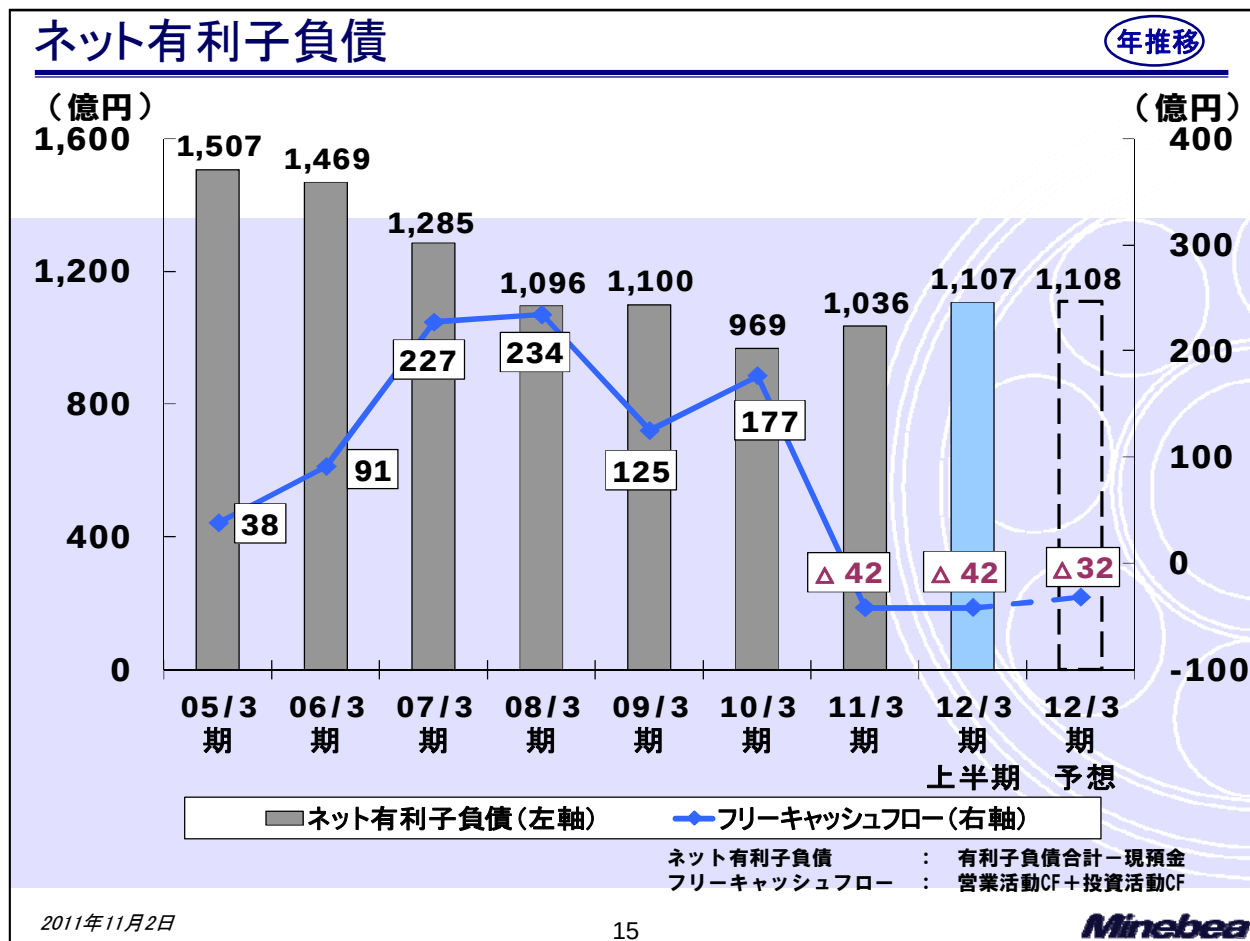


今期上半期における設備投資は131億円となりました。

この4月には、LEDバックライトの蘇州新工場とモーターのカンボジア仮工場が稼働を開始しており、タイのボールベアリング新工場も10月から稼働を始めました。

現在も、12月稼働予定のカンボジア自社工場、来年1月完成予定のタイの多目的工場、来年5月完成予定のドイツの特殊ベアリング工場といった新工場建設を進めております。

上半期の減価償却費は100億円でした。



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

第2四半期末におけるネット有利子負債は、1,107億円となり、前期末比71億円の増加となりました。これは利益減少の一方で、賞与や配当金の支払い、自社株買いの実施や各新工場立ち上げなどの資金需要が増加したことによるものです。

新工場建設などの設備投資が続くため、通期でもフリーキャッシュフローのマイナスが残ると見込んでいます。

業績予想

世界景気の減速、為替変動、レアアース高騰、
タイの洪水影響等を受け、業績予想を下方修正

(百万円)	2011年3月期	2012年3月期				2012年3月期 従来計画	
	通期	上半期	下半期 修正予想	通期 修正予想	通期予想 前期比	下半期	通期
売上高	269,139	132,448	130,552	263,000	-2.3%	150,000 ~137,000	285,000 ~260,000
営業利益	22,163	6,052	5,948	12,000	-45.9%	14,800 ~12,900	24,500 ~21,000
経常利益	20,364	5,032	4,968	10,000	-50.9%	13,800 ~11,900	22,500 ~19,000
純利益	12,465	2,769	2,231	5,000	-59.9%	8,600 ~7,700	13,000 ~11,000
一株当たり 純利益(円)	32.61	7.30	5.90	13.20	-59.5%	22.74 ~20.36	34.34 ~29.06

為替レート	11/3期 通期	12/3期 上半期	12/3期 下半期想定	12/3期 通期想定	12/3期下半期 従来想定	12/3期通期 従来想定
US\$	86.04円	80.24円	76.00円	78.12円	84.00円	84.00円
ユーロ	113.22円	115.76円	104.00円	109.88円	111.00円	111.00円
タイバーツ	2.75円	2.66円	2.45円	2.56円	2.80円	2.80円
人民元	12.78円	12.38円	12.00円	12.19円	12.60円	12.60円

2011年11月2日

16

Minebea

今期業績予想は欧米の財政危機に端を発する世界景気の減速と為替変動、レアアース高騰、タイの洪水影響等を考慮して、表にあるように業績予想を下方修正します。特にタイの洪水により、当社のロジャナ、ナワナコンのHDD部品製造の2工場が浸水被害を受けたのみならず、HDD市場などを中心にサプライチェーンの混乱が生じております。残念ながら、当社にとっては東日本大震災時を上回る大きな影響が予想されます。これについては、のちほど詳しくご説明いたします。

為替レート想定は、現在の市場レートを考慮して、円高方向に修正しております

セグメント別業績予想

(百万円)	2011年3月期		2012年3月期		
	通期	上半期	下半期 修正予想	通期 修正予想	通期予想 前期比
売上高	269,139	132,448	130,552	263,000	-2.3%
機械加工品	107,841	54,603	52,097	106,700	-1.1%
回転機器	101,139	49,980	49,320	99,300	-1.8%
電子機器	40,502	19,457	24,143	43,600	+7.6%
その他	19,657	8,407	4,993	13,400	-31.8%
営業利益	22,163	6,052	5,948	12,000	-45.9%
機械加工品	28,088	13,378	13,022	26,400	-6.0%
回転機器	△224	△1,417	△1,683	△3,100	-
電子機器	4,160	38	862	900	-78.4%
その他	498	△156	△344	△500	-
調整額	△10,358	△5,789	△5,911	△11,700	-

2011年11月2日

17

Minebea

こちらは、各事業セグメント別の修正予想です。

経営方針と事業戦略について

2011年 11月 2日

代表取締役 社長執行役員 貝沼 由久

2012年3月期上半期業績 計画未達の原因

2011年11月2日

19

上半期業績計画未達の主な原因

大震災影響は予想より大

- ・ボールベアリングの一時的製品ミックス悪化
- ・LEDバックライトの資材調達難に伴う赤字転落と回復の遅れ
- ・OA機器向け各種モーターの販売不振等

想定を超えるレアアースの高騰のため、
回転機器事業全般の改善遅れ



売上は計画上限近くに届いたものの、
営業利益は計画下限に未達

2011年11月2日

20

2012年3月期上半期の業績は計画未達となりました。

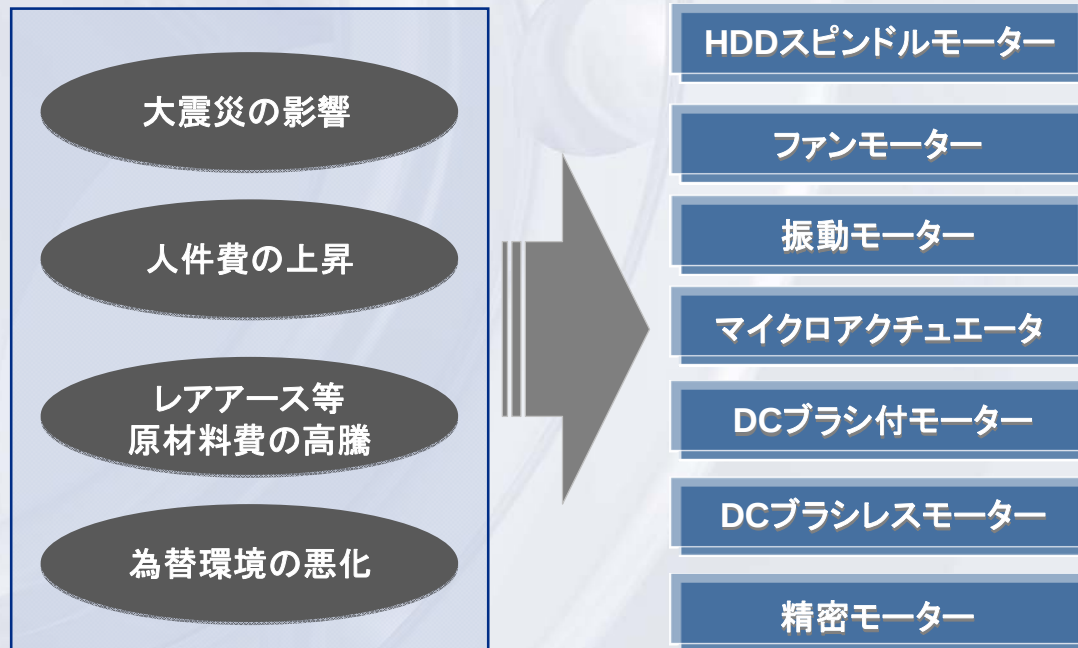
スライドには大震災の影響は予想より大きかった、また想定を超えるレアアースの高騰があったと書いてありますが、財務補足資料5ページのセグメント別業績にあるとおり、売上高はほぼ想定の範囲内に入ったにもかかわらず、営業利益が想定に届かなかった理由は大きく分けると2つあります。

1つは回転機器、それからもう1つは電子機器です。

回転機器は8億円のレアアース高騰の影響がありましたが、これがなければ再び黒字化が達成できていました。HDDスピンドルモーターもようやく四半期ベースで800万円の営業利益が出ました。

もう1つは電子機器です。特に前年同期と比べると、ゲーム機用計測機器の終了、それから4月からLEDバックライトの蘇州新工場がオープンしていますが、11月からの本格的な売上増加前にコスト増加に足を引っ張られてしまいました。

回転機器事業の損益悪化要因



2011年11月2日

21

これが回転機器事業の損益悪化の要因です。

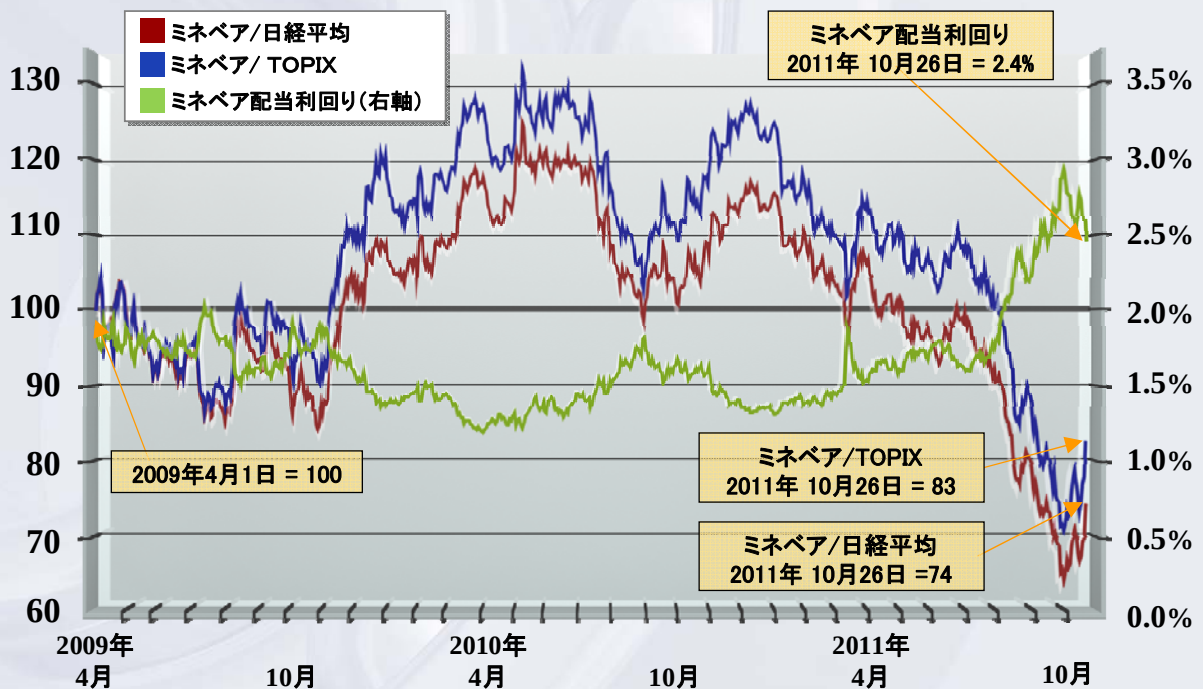
HDDスピンドルモーターは四半期ベースで800万円ですが黒字を達成しました。

ファンモーターもある1機種で非常に大きな赤字を出してしまいました。これは一過性という事でもうすぐ終息します。

マイクロアクチュエータは予想していたデジカメ向けの出荷が期待したほどの数に届かず、低迷いたしました。

DCブラシ付モーターはカンボジア移転がちょうど始まる所ですが、未だ思った程進みませんでした。

2009年4月1日～2011年10月26日



2011年11月2日

22

私の社長就任後からの相対株価パフォーマンスです。私が社長になってからの2年間、大変残念ですが今この様に日経平均あるいはTOPIXに対してもアンダーパフォームになってしまっています。来期は、上に線が行くように努力をしていきたいと思ひます。

ちなみに、緑で示した線は配当利回り、現在約2.5%と高まっていることを強調しておきます。

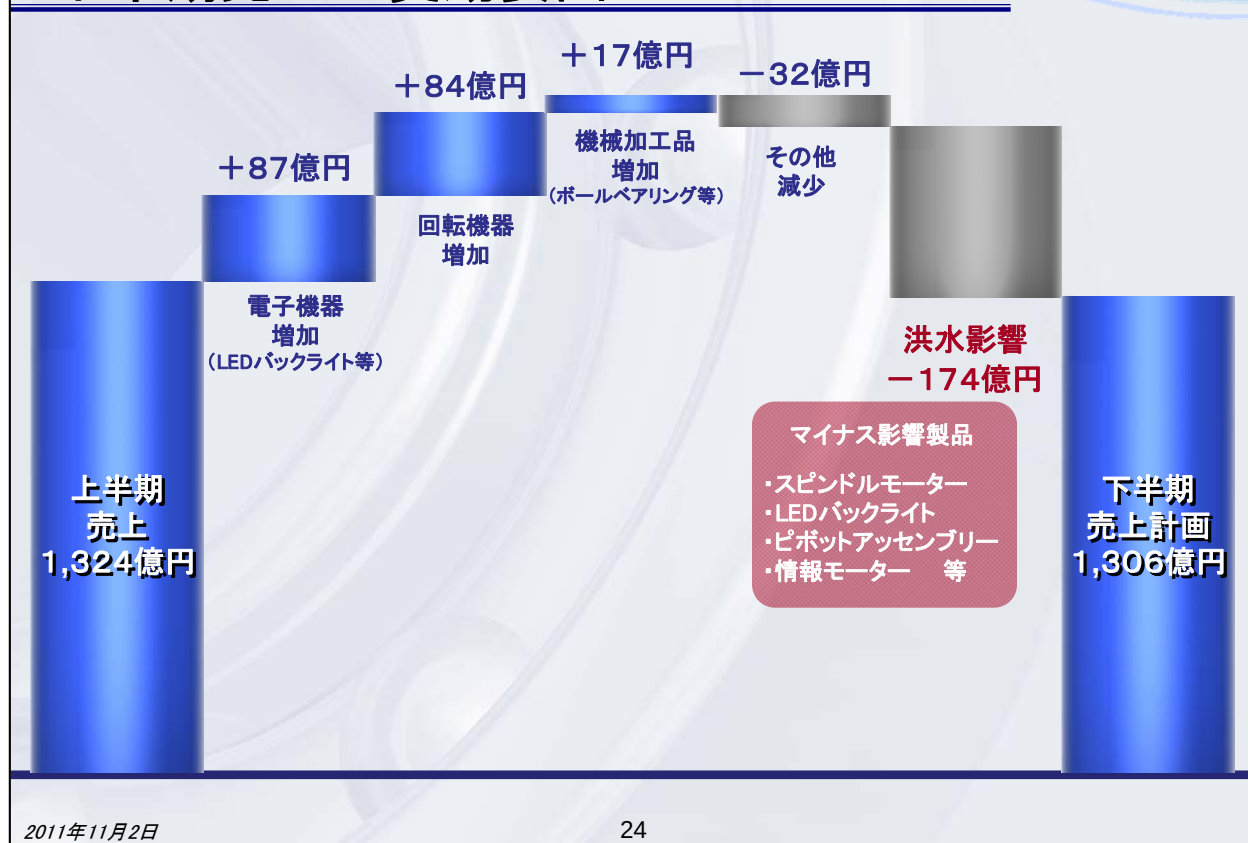
下半期売上と営業利益の 変動要因

2011年11月2日

23

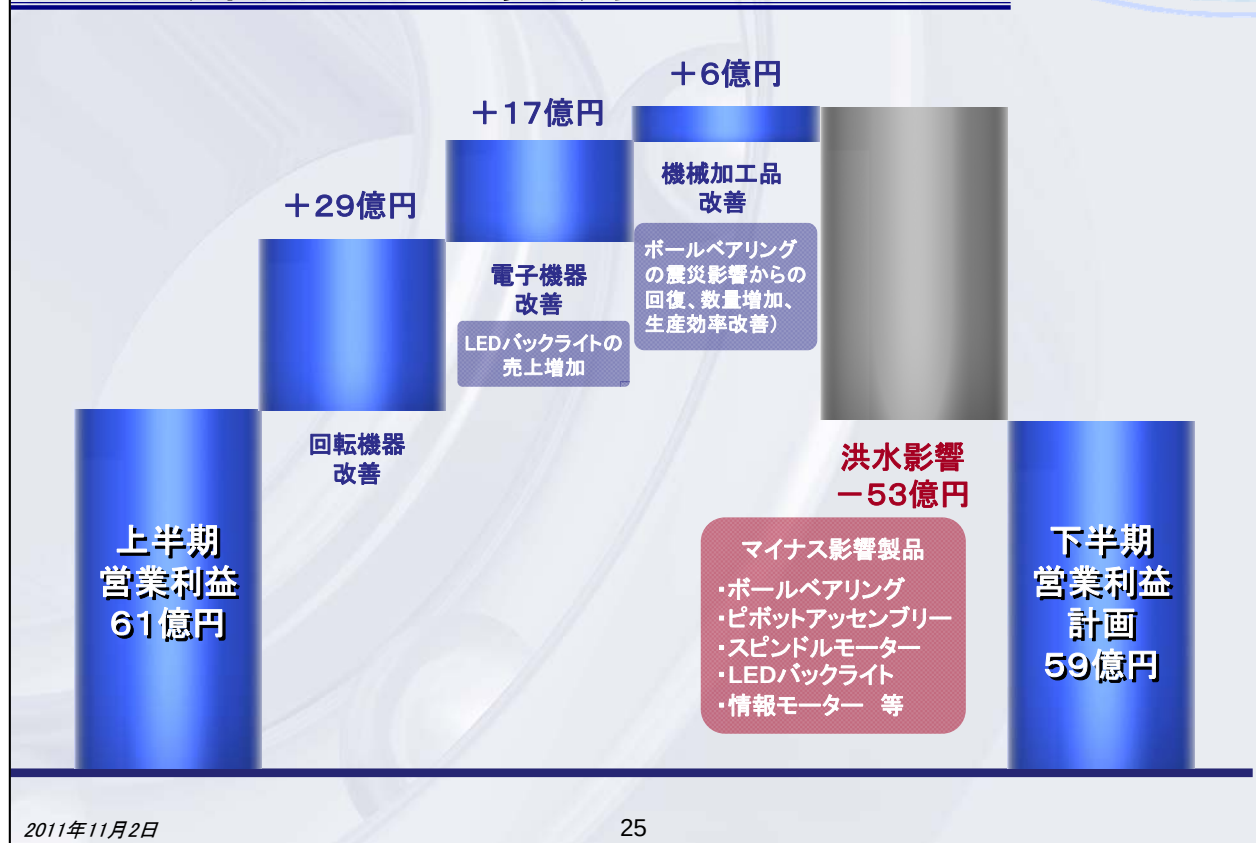
問題は下半期、そしてこれが来期にかけてどうつながっていくのかという事です。特に、タイの洪水が起こり、非常に混迷の度を深くしています。

下半期売上の変動要因



今回の発表に当たり、タイでの洪水の影響を現在分かる範囲で想定して今期予想に織り込み、皆様にお示しすることが重要と考えました。洪水は、HDD市場、一部自動車、OA関連といった業種にかなりの影響が予想されます。当社としては、下半期の洪水影響を売上高ベースで－174億円と想定しました。本来、この影響が無ければ、HDDスピンドルモーターを中心に回転機器の販売増加と、11月からのタブレットPC向けバックライトの生産開始で、約170億円の売上増加を見込んでいました。

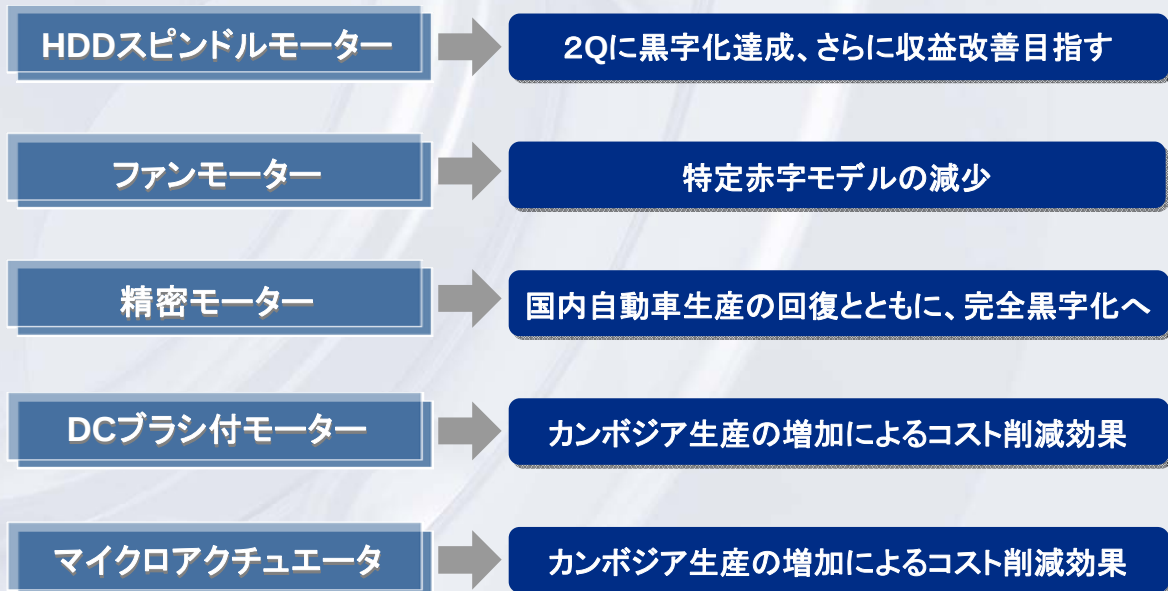
下半期営業利益の変動要因



一方で営業利益ベースでの洪水影響は-53億円を想定しています。上半期の営業利益は東日本大震災の影響があって61億円に留まりました。下半期の営業利益計画は約59億円と、上半期とほぼ同じ水準に留まる見込みです。タイの洪水の当社への影響は東日本大震災を上回る想定ですが、自助努力による収益改善を加えた結果、下半期は上半期と同水準とすることが出来ると考えています。

回転機器事業営業利益改善の背景

回転機器の改善で、+29億円



2011年11月2日

26

タイの洪水影響を除けば、この下半期では回転機器事業セグメントでは+29億円の営業利益改善を想定しています。

HDDスピンドルモーターは第2四半期に黒字を達成しました。さらに収益改善を目指すはずだったのですが、下半期には洪水の影響が大きく出て来ます。私達はHDDスピンドルモーターでは、現在、技術的にも製造においても自信を深めているというのが率直な所です。三度目の正直ではありませんけれども、この二度の震災と水害に負けることなく、この来期にかけてもう一度HDDスピンドルモーター事業を立て直し、来期は着実にまた確実に利益を出していきたいと思っています。

ファンモーターは先程ご説明したとおり、赤字モデルがありましたが、これが無くなる事によって改善をすると思っています。

精密モーターはようやく黒字化する予定です。我々の納入する自動車のモデルは幸いにタイの洪水影響を受けないとのことで、自動車向けが伸びる見込みです。来期は完全に黒字化できるだろうと思います。

DCブラシ付モーターとマイクロアクチュエーターについては、この1年でかなりのスピードでカンボジア工場の立ち上げを行なって来ています。既にレンタル工場でのこの2つのモーターの生産を始めていますが、着実にコストが下がってきました。DCブラシ付モーターは低価格モデルを全てカンボジア工場に移管している途中ですが、毎月製造コストが改善しており、今後も大変楽しみなコスト削減効果が生まれると思っています。

タイでの洪水被害影響(1)

ロブリエ工場	被害なし	通常稼動 通常出勤
アユタヤ工場	被害なし	通常稼動 出勤率80%
バンパイン工場	被害なし	通常稼動 出勤率60%
ロジャナ工場 (HDDモーターベースプレート製造)	浸水被害有り	操業再開時期未定
ナワナコン工場 (HDDモーター機械加工部品製造)	浸水するも床上 28cm程度 (2011年10月28日現在)	操業再開に向け作業開始



タイ
バンパイン工場

2011年11月2日

27

10月10日より12日間、全ての予定をキャンセルして、タイで陣頭指揮に当たりました。献身的な従業員や、先人たちの深い見識に守られて、当社は最小の被害でこの水害を乗り切ることが出来ました。多数の方々からご心配頂き、誠にありがとうございました。現状はこのようなっております。私共の主力工場であるロブリエ工場、アユタヤ工場、バンパイン工場は全く水の被害を受けず、現在、通常稼動をしています。私が撮ったこの写真はバンパイン工場、左側が堤防で、堤を作って水の浸入を防止する作業の風景です。

このような状況下で、当社としてはHDD部品工場の一日も早い復旧に全力を尽くす所存です。

今日の情報では、金型の回収は完了、ナワナコン工場の機械については3分の1から2分の1位は修理可能ではないかと思っています。

タイでの洪水被害影響(2)

損益影響予想

- 売上は約174億円のマイナス影響を予想
- 営業利益は約53億円のマイナス影響を予想

- ◎損害保険により、直接の洪水被害(更新価格)はカバーできる見通し
- ◎工場の空きスペースを利用した新しいビジネスの発掘



タイ
アユタヤ工場

2011年11月2日

28

この写真も私が撮影したアユタヤ工場です。写真上部の光っている部分は全て水で、ロジャナ方面が水没しているのがわかります。しかしながら、アユタヤ工場はお蔭様で水が1滴も入らずに済み、稼動を再開した所です。

先程申し上げた様に下半期の売上高への影響は－174億円、営業利益は約－53億円を予想しています。私共は損害保険を取得価格ベースで入っており、基本的には新品の価格で補償されます。

また、我々の主力工場は残っていますので、工場の空きスペースを利用した新しいビジネスや、新しいお客様からの注文など、色々なお話を頂いています。

下半期および来期に向けての施策

2011年11月2日

29

ここからは下半期および来期に向けての施策について、お話をさせていただきます。

ボールベアリング

バンパイン新工場 (タイ)

- ・ピボット向け拡大
- ・中国市場向け製品

マイオニック新工場 (ドイツ)

- ・生産効率改善と能力拡大

ロッドエンド・回転機器 LEDバックライト

ロブブリ新工場 (タイ)

- ・航空機市場の拡大と新型機納入開始
- ・スマートフォン市場拡大への対応

回転機器

カンボジア自社工場 (カンボジア)

- ・アジア人件費高騰への対処

LEDバックライト

蘇州新工場 (中国)

- ・タブレットPC市場拡大への対応
- ・大型受注の獲得

当面の間、工場空きスペースを多目的に転用

2011年11月2日

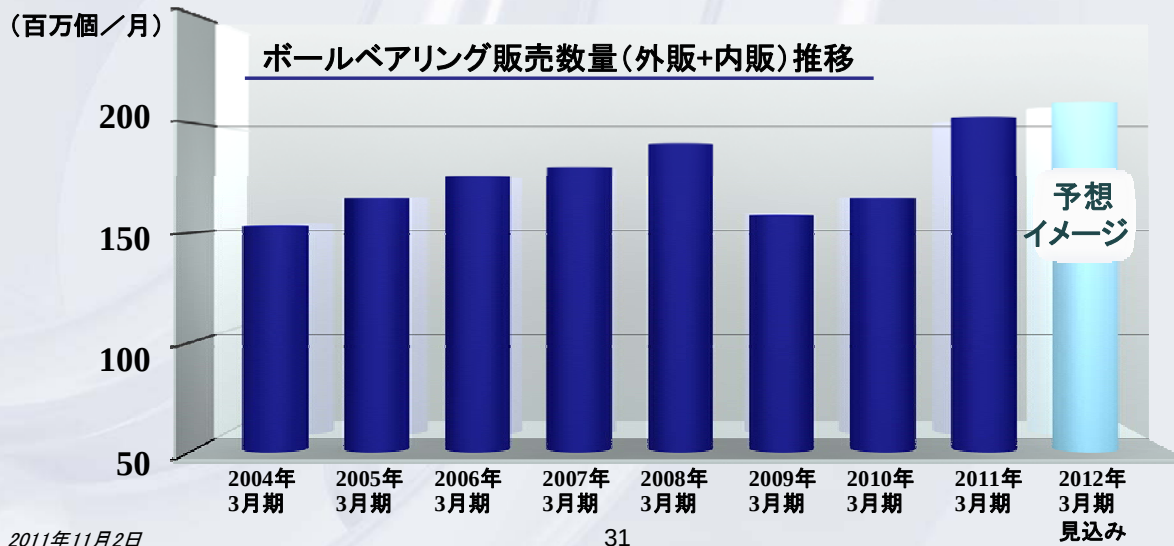
30

私が社長になってからリーマンショック、史上最高の円高、レアアースの高騰、千年に一度と言われる大震災、50年に一度と言われるタイの洪水と、めまぐるしい逆風が吹き荒れる中で、歯を食いしばってやるべき事をやろうという気持ちでやってきました。そして一步一步着々と次の飛躍のための準備が完成しつつあります。そのうちの1つの施策がこの新しい工場群です。第4四半期からは、確実に様々な産業で増産が進み、スタートダッシュがきわめて重要となってまいります。このような大きな増産に当社も十分対応できる競争力が備わったものと確信しております。

ボールベアリング生産販売数量は史上最高水準

世界経済の着実な拡大と共にボールベアリング需要は拡大中

- ・中国、インド、ブラジルなど新興国販売拠点を強化
- ・中径サイズ販売の強化



ボールベアリングについては、世界経済の着実な拡大と共に需要が拡大してきました。大震災のときにも製品ミックスの変化による収益変動はありましたが、出荷数量には大きな落ち込みはありませんでした。既に機械加工品セグメントは、円高や、東日本大震災といった逆風を全て撥ね退けて、以前とほとんど同じ利益率に戻ってきています。

バンパインの新しいボールベアリング工場には生産能力月産500万個の設備が入りました。来期中にはさらに月産1,000万個の生産能力を追加する予定です。

タイのボールベアリング新工場稼働開始

多目的ボールベアリング工場としての展開

- 生産製品:ピボット向け、中国市場向け低価格量産品及び中径サイズ
- 生産能力:今後2年程度で、月産40百万個程度まで引上げ可能
- 稼働開始:2011年10月からスタート



ボールベアリング新工場(タイ バンパイン)

2011年11月2日

32

この写真も私が撮影したバンパインの新ボールベアリング工場です。ここでは、中国市場向けの低価格量産品と、今までのサイズよりも少し大きめの中径サイズを中心に、今後2年程度で月産4,000万個を生産したいと思っています。

マイオニック新工場建設

- 生産製品: X線撮影装置などの医療機器向けや
歯科向けの特種ベアリングなど
- 投資額 : 約6億円
- 稼働開始: 2012年8月予定
- 狙い : ①賃貸工場の生産設備集約・再編による生産効率向上
②需要拡大に対応する生産能力拡大
③大幅な省エネ効果
④3年間で20%の売上増加を見込む



マイオニック新工場(ドイツ ロイトキルヒ)

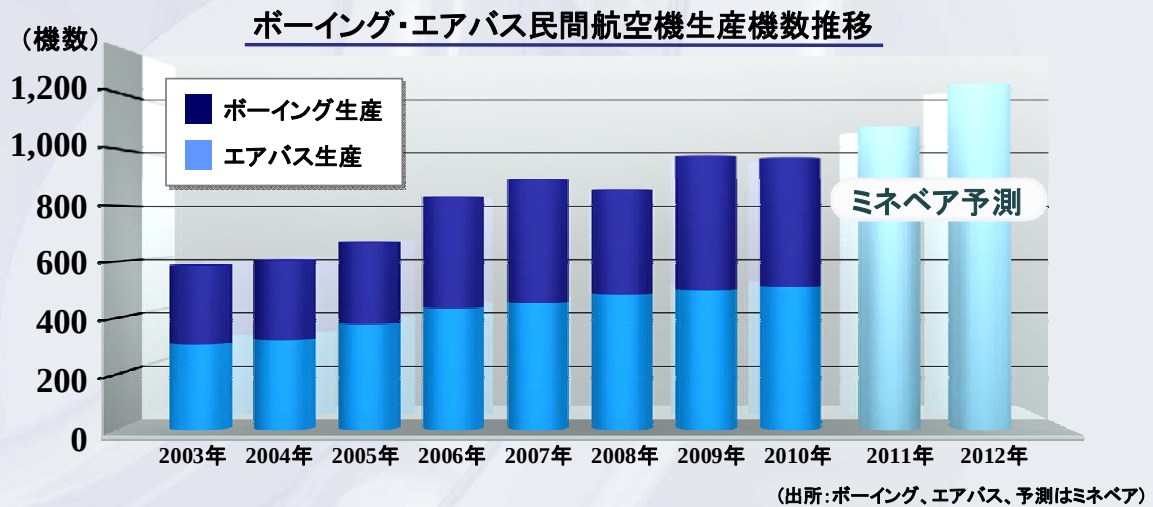
2011年11月2日

33

これはマイオニックの新工場です。6億円をかけて、X線の撮影装置、あるいは歯科向けの特種ベアリングなどの極めてニッチな市場向けに増強します。売上の伸び以上に、収益力という意味では投資対効果は非常に大きいと思っています。

航空機用ベアリングの受注好調

航空機受注が増加し、中期的に市場は拡大中
ボーイング787生産も拡大局面に入った



- ・製品範囲の拡大に取り組む
- ・製造コスト引下げに向け、タイ・ロブリー工場の生産能力を拡大へ

2011年11月2日

34

ボーイング787がようやく就航しました。これでボーイング787を中心とした増産は確実なものとなり、航空機市場は順調に拡大していくと予想されます。ここはタイの洪水影響とは全く関係ありません。

- 建設予定地:タイ ロッブリ工場
(建設を中止したピボットアッセンブリー工場用地を再利用)
- 建屋面積 : 19,000㎡
- 建屋完成 : 2012年1月末予定(通常工期より2カ月短縮)
- 生産製品 : 既存ロッブリ工場から回転機器部品等生産ラインを移管



- 既存ロッブリ工場移管スペースの活用
 - ▶ ロッドエンド生産能力を拡大予定
 - ▶ LEDバックライト生産能力も拡大予定

2011年11月2日

35

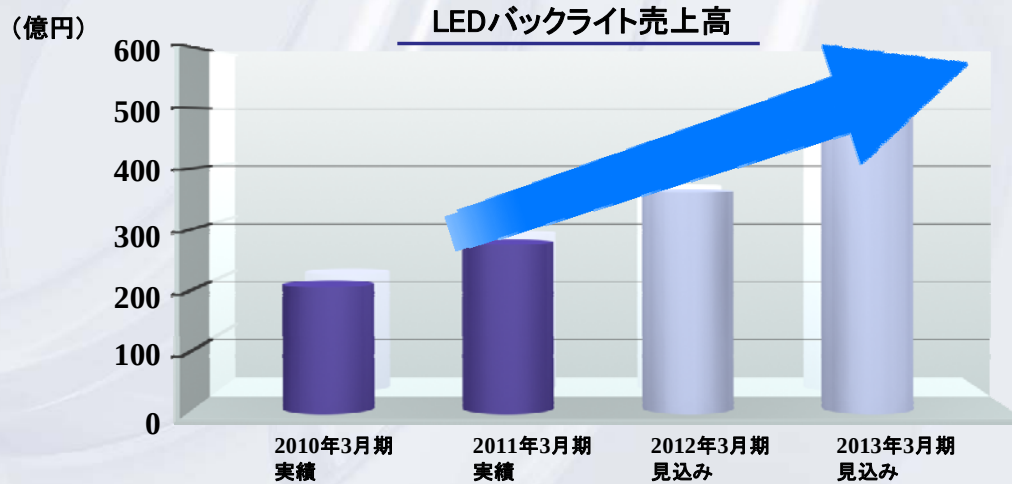
来年1月末に完成予定のロッブリの新工場です。LEDバックライト用のクリーンルームの拡張、ロッドエンド・ベアリングの生産能力の拡大、バンパイン工場にあるモーター部品用プレス工場の移転などの目的で建設が進んでおります。

LEDバックライトの成長戦略

スマートフォン市場とタブレットPC市場の成長

当社の得意とする
高細密薄型省エネLEDバックライトへの需要増加

大型受注獲得と生産能力拡大



2011年11月2日

36

すでにご説明しておりますが、いよいよスマートフォン市場やタブレットPC市場に本格参入いたします。

LEDバックライトの蘇州新工場

4月操業開始の蘇州新工場での増産が進む



2011年11月2日

37

これがタブレットPC向けのバックライトを中心に生産していく蘇州新工場の写真です。

回転機器事業の損益改善と業容拡大

カンボジア・モーター工場への生産シフトによる
アジア人件費高騰への対処

レアアース高騰に対応した製品値上げと設計変更

モーター複合製品の開発・販売強化

モーター開発拠点を、中国・深圳に設置

タイ洪水影響から回復後に
HDDスピンドルモーターの利益化

2011年11月2日

38

私は回転機器事業の来期を非常に楽しみにしています。まず、カンボジア工場が本格稼動してきます。今、着実にコストが下がってきています。

そして、レアアースの高騰に対応するため、今後更に製品の値上げが反映されてきます。また将来を見越して、なるべくレアアースを使わない様な設計変更を行っています。

また、モーター複合製品の開発や販売の強化を行っています。

それから、モーターの開発拠点を中国深圳に設置しました。

カンボジア・モーター自社新工場建設

アジア人件費高騰への対処

4月にカンボジア仮工場を立上げ

12月完成に向け、カンボジア自社工場の建設中



2011年11月2日

39

これは建設中のカンボジア工場の最近の写真で、今月末に完成の予定です。

ちなみに、ここも、この400mの長さの工場全体を1m位高く建設することで、水害対策を行っています。
今は小さなレンタル工場で800名の従業員が、毎日トレーニングを積んでいます。

当初はマイクロアクチュエーターとDCブラシ付モーターの生産から始め、今後は振動モーターとDCブラシレスモーターの生産も続く予定になっており、来期は必ず戦力になると思っています。

来期の貢献工場

Minebea



以上、5工場で来期は売上合計300億円は貢献してくれるだろうと思っています。

HDDスピンドルモーターの利益化

品質強化

歩留まり改善

開発力強化：
7mm厚2.5インチHDD用モーターの納入開始を予定



タイ
洪水
影響

当社被災部品の代替手配
サプライチェーン混乱の復旧

販売数量
増加

2011年11月2日

41

HDDスピンドルモーターも技術的にもかなり成熟してきました。この第2四半期で営業利益が出せた事は、私を始め関係者の励みとなりました。

販売拠点の拡充

アメリカ



デトロイトに販売拠点を設立へ

ブラジル



4月に現地販売会社を設立

中国



営業拠点の増設と人員増強

新たに成都、武漢、西安に設置し、既存の香港、深圳、上海、大連、北京、蕪湖に加えて9拠点、約170名体制に

インド



人員増強

バンガロール、チェンナイ、デリー、プネーの4拠点を増強

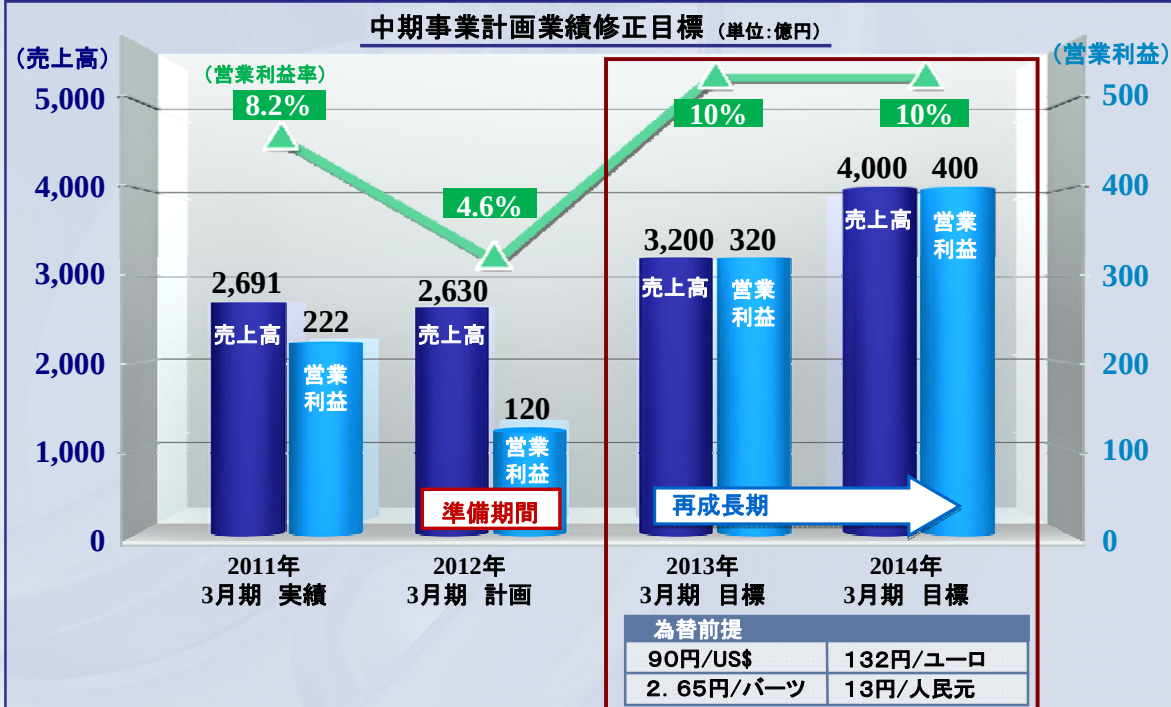
2011年11月2日

42

すでにプレスリリースでご案内の通り、販売拠点を拡充しています。

中期事業計画業績修正目標(今期は踊り場へ)

市場の成長は「停滞」と予想、当初想定目標の達成は1年先送りに



2011年11月2日

43

一年半前に発表した中期事業計画です。今年5月の決算説明会では、大震災を受けて今年は来期の飛躍の為の準備の年と申し上げました。更にタイの洪水もあり、この様な減額修正をしております。

ただ、来年の年明け位からかなりの勢いで色々な分野での増産がかかり、在庫が減少し、我々にも相当な増産要求が来ると思っています。

来期は既にご説明した状況を踏まえて、中期事業計画2年目の目標達成に邁進する覚悟です。為替の前提がドル90円となっていますが、ここまで円高が定着してきますと、来期はこの中期事業計画の為替想定を見直して修正しようと思っています。しかし、売上高3,200億円、営業利益320億円という目標には出来るだけこだわっていきたいと思っています。

財務戦略

2011年11月2日

44

配当方針

配当

12/3期 中間配当 **3**円/株

12/3期 予想期末配当 **4**円/株

計年 **7**円/株

配当方針

「当社は、経営環境を総合的に勘案し、継続的に安定した利益配分を維持しながら、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元をはかることを基本方針といたします。」

2011年11月2日

45

配当は従来通り一株あたり年7円を継続させて頂く予定です。

ネット有利子負債、自社株買い、M&A

フリーキャッシュフロー創出重視と財務の健全性維持

- ・ 今後とも、財務体質の健全性とキャッシュフロー創出を重視する
- ・ ネット有利子負債は、1,000億円を中心としたゾーンを引き続き目標とする

自己株式戦略の継続

- ・ 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行する

M&A戦略

- ・ 機械加工品を中心に、強い事業をより強くすることを狙って、積極的なM&A戦略を展開する
- ・ 円高のプラス面を活用する

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。